

4月21日「川根茶の日」を宣言

川根お茶街道推進協議会 「制定セレモニー」

川根町・川根本町の行政と茶業関係者等で構成する川根お茶街道推進協議会（会長…杉山町長）は、4月21日「川根茶の日制定セレモニー」をフォーレなかかわね茶茗館で行いました。

協議会では、川根茶の魅力を広くPRしようと、立春から数えて七十七夜である4月21日を「川根茶の日」と制定し、広域で連携を図り、行政の枠を超えた活動を展開していく方針です。

セレモニーでは、両町の行

「川根茶」を地域づくりに結びつける取り組みに挑戦

川根本町は恵まれた自然環境を活かし、古くから良質茶の産地として広く知られてきました。しかしながら、消費の低迷・品質の維持や省力化への取り組みなど課題も抱えています。これまでは個々の取り組みで対応してきましたがこれからは地域が一体となり、生産から加工流通関係者が協働して「本物づくり」や「産地ブランド」の確立を図らなければ、産地として生き残れません。

こうした中で、自然環境を活かした、こだわりの美味しいほんものといえるお茶の存在をさらに全国の方々に知って頂く機会とし、第60回の全国お茶まつりを当町に誘致しました。

多くの方が川根本町を訪れるこの機会に、川根本町茶業振興協議会、川根お茶街道推進協議会などが協働して、良質の川根茶を作り、消費者に届ける仕組みを確立し、お茶を地域づくりに結びつける様々な取り組みに挑戦しようと思います。

嗜好品のお茶は、文化や暮らしと共にあることが不可欠です。茶業関係者だけにとどまらず、多くの方が「川根茶」との関わり方を提案・実践していくことが、産地間競争に勝ち抜き、先人たちが築き上げた、かけがえのない資源を活かす方策だと思えます。

川根本町長 杉山嘉英



政や茶業関係者が参加、杉山協議会会長は「全国に向けて川根茶産地の魅力をアピールしていく。10年後・20年後に、この日が川根茶の転機だったねと言われるような日にした」とのべました。

また、セレモニー後は、町民の方による「のだて」が行われ関係者は川根茶を味わいながら「制定の日」を祝いました。

そして、川根茶フェアへ

川根茶の日となった4月21日を皮切りに、7月末までの期間、「川根茶フェア」を両町を舞台に繰り広げます。記念品が当たるスタンプラリーや接岨峡温泉などで行われる

茶つみ体験、茶畑ウォーキングなど様々なイベントを通して、川根茶への関心を高め、消費拡大や販売の促進につなげる方針です。

また、川根茶を育む地域の魅力を再確認し、交流人口の増加を図り、さらには、地域住民の川根茶に対する意識の向上も目指します。

フェア期間中には、川根茶に関する写真や絵画等の作品を広く募集中です。お問合わせはまちづくり観光協会（59）2746まで。

川根お茶街道推進協議会

川根町・川根本町の行政、商工会、観光協会、茶業関係者など16の団体が構成されています。川根地域の主要産業であるお茶の魅力をもっとPRし、茶業の振興や観光客の誘致などにつなげていくことを目的としています。

川根茶の日

立春から数えて七十七夜にあたる4月21日が選ばれました。立春から数える日といえは、八十八夜がおなじみですが、茶農家が最も忙しい時期ということとこれを避け、10日早い4月21日を川根茶の日としました。（うるう年は4月20日）今年度初めて開催される「川根茶フェア」を同日から開催。さまざまなイベントを毎年展開していく予定です。



セレモニーのあと、町民の方による「のだて」が行われました